

東奥日報

2023年(令和5年)9月1日(金曜日) (18)

「みちニワ」実証試験スタート

にぎわう中心街 目指して

キッチンカー、コンサート―仕掛けさまざま



滞在空間(右側)前で行われたコンサート―十三日町

八戸

八戸市の中心街を通る国道340号の1車線を規制して歩道を広げ、歩行者の滞在空間やキッチンカーを置く市の実証試験「みちニワ」が8月31日、始まった。同日は猛暑日となり、日中に屋外で休憩する市民はほとんどいなかったが、中心街で働く人たちがキッチンカーで昼食を買い求めた。実証試験は11日まで。(三好陽介)

みちニワの実施区間は十三日町と三日町の約350坪。3車線を2車線に減らし、新たに生まれた場所には人工芝を敷き、いすやテーブルを設置した。八戸工業大学感性デザイン学部の学生が制作した木製家具も滞在空間に並んだ。

みちニワ初日、十三日町の歩道では「青空コンサート」と題して、同市の新舞踊家元・花邑一弥さんらが歌謡曲を歌った。花邑さんは「何げない場所であっても表現できることはありがたい。通りすがりの方が少しでも楽しいと思ってくれば」と笑顔で語った。

31日の八戸は最高気温が36・2度まで上昇。十三日町の百貨店・旧三春屋前の広場でかき氷や野菜を販売した居酒屋店長の堀切春樹さん(30)は「少しでも中心街を盛り上げられたらと思うので出店した。市を挙げた取り組みは良いと思う」と汗を拭いた。

商店街振興組合三日町三栄会の類家徳久理事長は「祭りやイベント以外でも市民が中心街に出て物を売ったり発信したりすることは、にぎわいをつくり出すきっかけになる。今回は期間限定の実証試験だが非常に期待している」と話した。

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」